

奥秩父・笠取山（1953m）登山



笠取山からの富士山

期日 2019年4月28日（日）晴

参加者 石川 誠 佳子

行程 自宅 5:00st-茅ヶ崎 ic--圏央道-中央道-勝沼 ic 塩山--一之瀬林道-落合--

10:00 柞場平登山口-10:25—12:25 笠取小屋 12:40—13:20 笠取山 13:45-14:25 水干
14:15—16:10 柞場平着

5月連休の中 1日足慣らしに多摩川水源の笠取山を目指す。



一休坂分岐

渋滞を避けて早めに出発したのだが、圏央道が中央高速に合流するところで渋滞、やっと勝沼を下りて塩山を過ぎ、一之瀬林道沿いの登山口柞場平登山口についたのが10時すぎであった。

この頃同じ中央道を新宿から松本に向っていた焼岳に向かう福沢君グループもおなじ渋滞の中に巻き込まれていたようだ。

車を林道の脇に置いて出発。スタートが遅いので時間を見ながら取敢えず笠取小屋を目指す。

川沿いの林間の中を緩やかに登り、一休坂へ、周りはミズナラの原生林に囲まれ、笠取小屋への急な道をジグザグに登って水場に着いた。小屋は、この上にあった。

平屋建ての小屋は、もとは作業場の跡であろうか、小屋を守る会の方々が、受付をしている。周りには多くのテントが張り巡らされ、盛況である。

林の中には小鹿を連れた鹿の群れが10数頭見受けられ、こちらの様子をうかがっている。
此处から頂上へは1時間強、木道で整備され、小さな分水嶺という所に導かれる。

この分水嶺は、多摩川、富士川、荒川の分水嶺とのことで、貴重な場所小さな境界石が建てられている。

ここからは防火帯であろうか、途中雁峠の道を分け、大きく開けた草地の道が頂上へと続いている。



笠取小屋

帰りは、もと来た道に戻り途中にあった大菩薩温泉という日帰り湯に立ち寄り渋滞を避けるため、汗を流しゆっくり帰ったが、予想に反して小仏トンネルで渋滞にはまり、家に着いたのが午後10時過ぎ、笠取山は静かな良い山であったが、往復が渋滞に悩まされた一日でもあった。



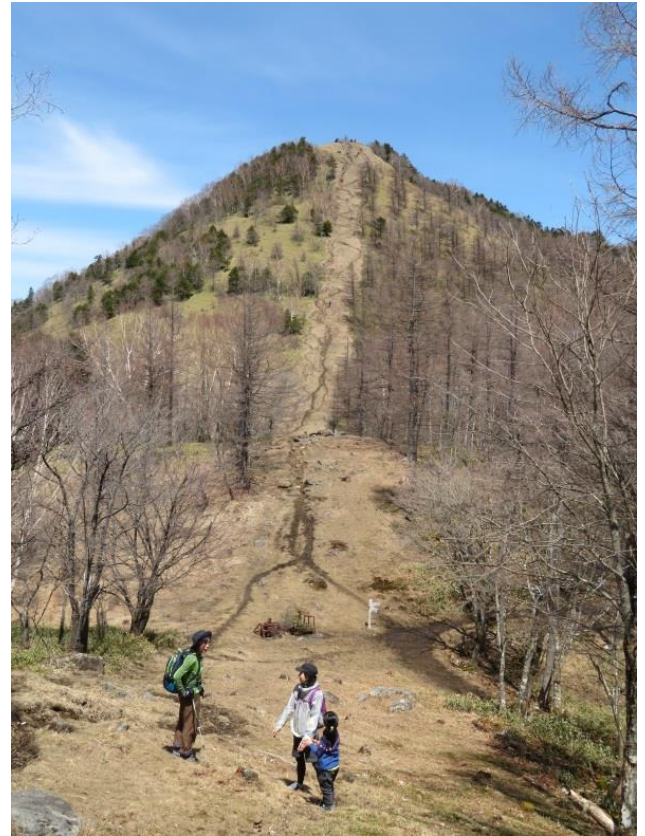
水干分岐から頂上を望む



竹藪の中に鹿の足・熊にでも襲われただろうか



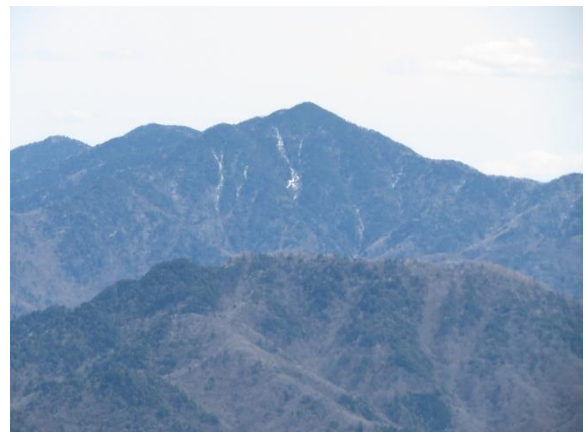
笠取山頂上にて



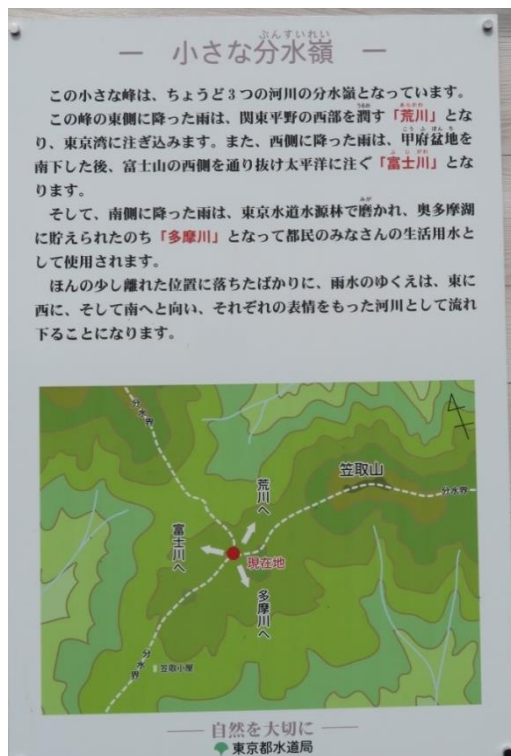
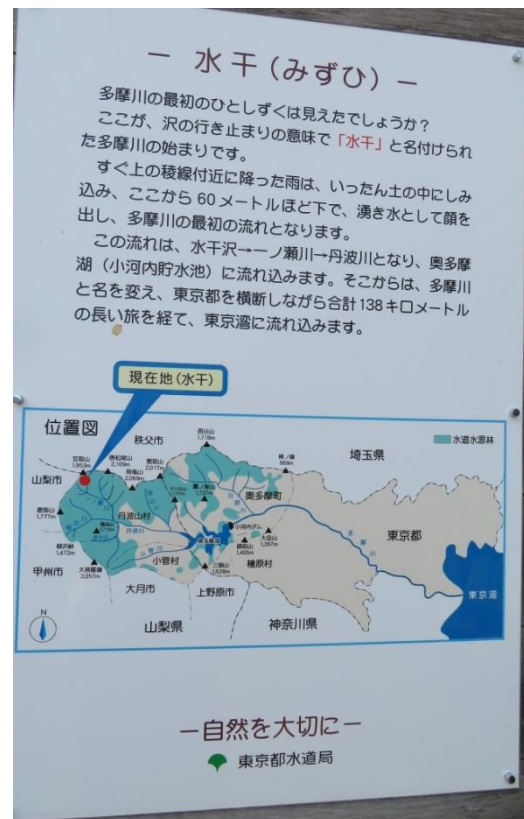
小学校 1 年生の元気な女の子がお母さんと一緒に来ていて、今日はテント泊りとのことでした。



雲取山



甲武信岳



多摩川の源流・水干、この一滴が 富士川・荒川・多摩川の分水嶺とのこと